

⑨日本国特許庁  
公開特許公報

⑩特許出願公開

昭53-105089

⑪Int. Cl.<sup>1</sup>  
A 61 F 9/00

識別記号

⑫日本分類  
94 B 0

庁内整理番号  
7001-33

⑬公開 昭和53年(1978)9月12日

発明の数 1  
審査請求 有

(全 2 頁)

## ⑭明視装置

⑮特 願 昭52-19022  
⑯出 願 昭52(1977)2月23日

⑰発 明 者 山川清  
柏江市岩戸南3-2-7  
⑱出 願 人 山川清  
柏江市岩戸南3-2-7

## 明 細 書

## 1. 発明の名称 明視装置

## 2. 特許請求の範囲

形状や色や明暗をそれぞれに映出した電位差に  
変えて視野や視力を供与出来る明視装置。

## 3. 発明の詳細な説明

眼球内の網膜の周辺部に在る約1億個の明暗に  
感応する視細胞カン状体や中央部に在る約300個  
の形状や色彩に感応する視細胞メー状体の化学反  
応によつて約100万本の樹状の視神経の束に電  
位を発生させてこれを眼球外の視神経を通じて大  
脳内の視覚神経上に映像させて見る事が出来るの  
である。

本発明は視野を用いる事なくしてカメラに映じ  
た外界の形状や色彩や明暗等を撮像管内の部品に  
よつて夫々に該当した電位にかゝそれ等を眼球外  
の左右の視神経に夫々必要に応じては金剛針を挿  
入して送給させて信号を送るか又は脳波テストの  
場合のように大脳内の視覚神経上に感応させて結

像させるようにした明視装置に係るものである。

上記のように本発明は全世界の盲人に健全なる  
視野や視力を享受させる事が出来るので人々の福  
祉に多大なる貢献をなすものであり正に紀元を刷  
する大発明ということが出来る。これを一実施例  
について説明すれば

(1) カメラ (2) 撮像管 (3) および (3') は夫々  
眼球外の視神経 (4) および (4') は夫々左右の視  
神経に挿入した金剛針である。

尚本装置に集積回路を用いる事により装置を縮  
小小型化する事が出来るので恰もメガネ同様の行  
使用に便となる。

## 4. 図面の簡単な説明

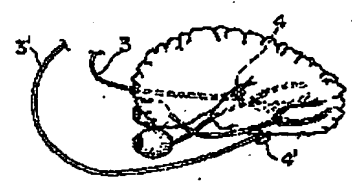
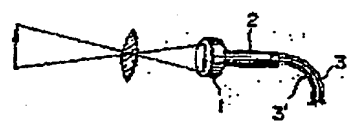
図は本発明の一実施例構成を示す。

①カメラ ②撮像管 ③および③' は夫々眼球外  
の視神経 ④および④' は夫々金剛針である。

特許出願人 山 川 清

BEST AVAILABLE COPY

特開 昭53-185039(2)



BEST AVAILABLE COPY